

## 『東京理科大学の現状と課題』（平成 18 年度版）の刊行にあたって

「理学の普及をもって国運発展の基礎となす」との建学の精神に基づき、創設者 21 名が東京理科大学の前身である東京物理学講習所を設立してから数え、平成 18 年 6 月 14 日に本学は創立 125 周年を迎えた。昨年は、記念式典や記念行事が開催されるなど、在学生、卒業生、教職員一同活気溢れた賑やかな一年であり、本学の伝統と発展を改めて社会にアピールする絶好の機会でもあった。予定されていた行事が滞りなく終了した今、本学の歴史の重みを改めて感じるとともに、今後の発展を誓ったところである。125 周年のスローガンとして掲げた「Conscience～21 世紀の科学は良心へ向かう～」の実現に向け、引き続き大学改革を進めていきたいと考えている。

本書は、私が理事長に就任してから 3 度目の刊行となるが、当初と比較すると版を重ねるごとに厚みが増し、新たな項目が追加されていることが見て取れる。それだけ、この 4 年の間にも、本学の教育・研究・社会貢献活動等が活発に行われてきたことの証だと思う。

平成 20 年度に本学は、第三者評価を受審するため、現在、自己点検評価報告書の作成を進めている。しかし、これはあくまで認証評価機関の評価基準項目に沿ったものであり、本学の活動内容を広く公開することを目的としている本書とは、その性格を異にしている。また、本書は、近年の活動・出来事の記述だけに留まらず、本学の歴史を記録した資料集としての役割も担っている。本学の理解を深める上では、この『東京理科大学の現状と課題』に勝るものはないと確信しており、今後も本書の編纂は継承・発展していきたいと思っている。ぜひ手にとり、ご一読いただくことを強く願う次第である。

18 歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来に代表されるように、大学を取り巻く環境は極めて厳しく、将来的にも好転することは予想し難い。こうした厳しい状況の中で、本学が特色ある大学として学生から「選ばれる大学」となるためには、たゆまざる改革を進めるとともに、自己点検・評価の意味を再認識した上で、取り組むべき課題を明確にし、絶えず改善に努めていかなければならない。そのために、本書と自己点検評価報告書を本学の改善の材料として有効に活用していきたいと考えている。

あらためて言うまでもなく、大学の使命は、教育・研究の成果を社会に還元し、社会が要請する有為な人材を輩出することにある。本学の 125 年という「伝統」と東京理科大学という「ブランド」を携え、これに甘んじることなく、社会に開かれた大学であるとともに、教育・研究を通して良心をもった研究者・技術者・教育者の育成に向け、引き続き、全教職員の協力

のもと努力をしていく次第である。

最後に、本書の編集にあられた理大白書編纂委員会委員はじめ関係各位のご尽力に深く感謝するものである。

平成 19 年 3 月

学校法人 東京理科大学

理事長 塚 本 桓 世